

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	子どもサポート教室 プリズム			
○保護者評価実施期間	2025年7月8日 ～ 2025年7月15日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21名	(回答者数)	7名
○従業者評価実施期間	2025年12月15日 ～ 2025年12月19日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日				

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども達が楽しみながら活動に参加、通所出来る。 それぞれの児童に対して必要な支援を行い成長を促す。	作業療法をはじめSST、子どもたちが療育を楽しめる工夫をしながら支援を行う事で、自発的な成長や事業所への来所に繋げる事が出来ている。	それぞれが児童への理解を深め、個々のスキルアップを図る。
2	保護者と連携を取りながら、一緒に支援できる環境や子どもを理解する事が出来る。 保護者自身が家庭での関わり方について理解を深める事が出来る。結果子どもとの時間が楽しく楽になること。	保護者に対し、事業所での支援内容の共有、根拠に基づいた支援の内容や日ごろからの情報共有。相談援助において家庭での困り感から、特性がどのように影響しているのか、どのような取組が有効か等を共通認識をもって取り組んでいる。また、必要に応じて社会資源や制度関係や検査内容について説明や理解がしやすいように支援を行っている。	ペアレントトレーニングや交流イベントなど、保護者参加型の研修や交流の場の提供
3	1. 2の環境を提供する為の職員の質や知識	1番に子どもの利益や将来像をイメージしながら関わる事が出来る。専門的な知識や経験を生かしながら今向き合っている子ども達に対し出来る限り効果や質の高い支援、援助を行おうとする姿勢や体制。達成する為にディスカッションやケース検討を行っている。	研修やディスカッションを行う事で知識の向上や自分の専門分野の波及。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域や他の児童グループとの活動。	地域の児童との関わる機会が弱いと感じる。 色々な子ども（普段から関わらない様な）との関わる機会がすくない。時間的な制約もあるが機会提供を行って行きたい。	他の事業所と連携をしながら、普段関わらない児童や人との関わる機会を提供していく予定。
2	自立支援協議会などへの参加	多職種や地域での課題などについて知る機会や社会資源を知る機会などが少ない。	時間を確保しながら、参加できる体制づくりを行っていききたい。
3	ペアレントトレーニングや保護者の交流の場の提供	保護者向けの勉強会や研修の提供することやピアサポート、親子のイベント等が出来ていない。保護者がより具体的な子どもとの関わり方や家庭以外の様子や成長を感じる場を提供していきたい。	季節のイベントや計画を行い、どのように実現していくかを職員と協議しながら実現していきたい。